

平成 28 年度 森づくり県民提案事業 実施報告書

事業名 「黒森古道の巨木杉とその周辺の整備」

目次

1. 事業の目的・特徴

2. 活動の計画

3. 活動状況

4. まとめ

5. 添付資料

平成 28 年度対象領域（地図）

黒森山新規作成山道 2016091001 ルート（地図）

黒森山（766）と西和賀の滝に行く（個人山行報告）

平成 28 年 12 月 20 日

金沢諏訪堂の会

1. 事業の目的・特徴

金沢から黒森山に至る古道（かつての生活道）がある。全長8キロ位。標高は150から760メートル。標高600メートルの古道周囲には、500年を超す杉の巨木が6本ある。近くにはクロサンショウウオやモリヤマガエルが生息する沼もある。しかし、巨木とその周辺は保全作業が施されずに荒廃した状況にある。巨木杉の手入れをし、その周辺を藪払い、下刈りを施し整備してこの一帯を、山を愛好する人々の憩いの場としたい。

黒森古道を歩き、天然杉の巨木に集い、クロサンショウウオが生息する三日月沼で一休みできれば、そこは山林を満喫できるオアシスになるはずである。現状は藪と灌木が茫々とした荒れた山林でしかない。開発後は、地元の小中学生をはじめとして多くの市民をこの地に案内する予定である。古道には数百年の歴史があり、この伝統ある歴史文化も併せて広める予定である。

2. 活動の計画

本事業に提案した計画に基づいて実施計画を立てて、それに基づいて下記の活動を行った。場所は、金沢の黒森・御嶽登山口から黒森古道を6キロメートルほど登った黒森山の麓である。所番地は、美郷町六郷東根である。昨年、ここで巨木杉を見付け、それに「千古杉」と命名した。千古杉の真下に三日月型の沼がある。この沼を「三日月沼」と命名した。この千古杉と三日月沼周辺を手入れし人々が憩える場所にすることが計画の内容である。

先ずは、平成27年度までに再開拓した黒森古道の鏡沼近くの三叉路から千古杉までの古道を再開拓することから始め、その後千古杉周辺の藪払いと下刈りを行い、切り取った樹木枝葉の集積処理を施すことが主な活動内容である。使う道具は、チェーンソー、刈り払い機、ナタ、ノコギリ、スコップ、ツルハシ、トガなどである。

6月4日	鏡沼近くの三叉路から千古杉までの古道再開拓
6月11日	千古杉周辺の藪払いと下刈り
6月18日	千古杉の手前の巨木杉の藪払いと下刈り
6月25日	千古杉の正面の巨木杉の藪払いと下刈り
7月30日	新たに発見した巨木ブナの藪払いと下刈り
9月10日	千古杉と黒森古道開通記念登山

道具が多く重いことから途中までキャタピラで運搬した。また、藪払い、下

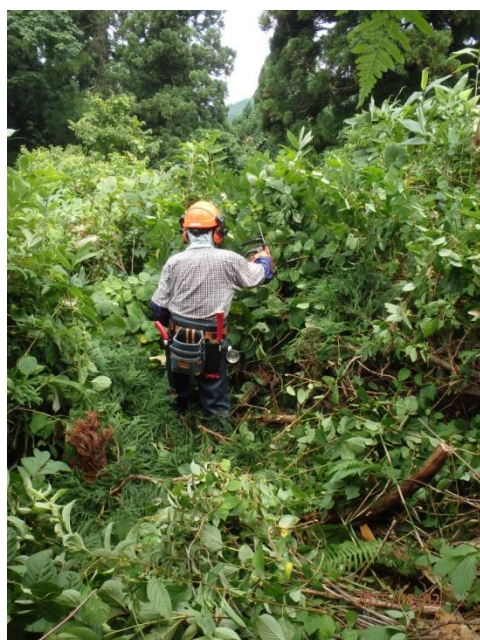
刈り、チェーンソー作業などの山仕事を「農事組合法人十二牲担い手生産組合」の専門家に委託した。

9月10日に、千古杉と古道開通の記念登山を計画した。千葉県の「我孫子山の会」と秋田県内からの参加者があった。参加者全員で千古杉の前で神事を執り行った。

3. 活動状況

平成28年6月4日、6月11日

千古杉への古道再開拓と千古杉周辺の下刈りと伐採



黒森古道の道なき道を再開拓



発見された千古杉



キャタピラで道具を運搬



周囲を整備した後みんなで



千古杉下の三日月沼



古道上の倒木の排除

平成28年6月18日

千古杉手前の巨木杉周辺の下刈りと伐採



巨木杉の周囲の整備



伐採枝葉の集積処理



歩けるようになった古道



整備された巨木杉の周囲

平成28年6月25日

千古杉正面の巨木杉周辺の下刈りと伐採



巨木杉の周囲の下刈りと集積処理（刈り払い機）



伐採した枝葉の処理



発見された巨木ブナ



古道の整備



整備後の巨木杉の周囲

平成28年7月30日

巨木ブナ（万古ブナ）周辺の下刈りと伐採



刈払い機での下刈り



刈払い機での下刈り



伐採樹木の加工



藪形成の樹木の伐採



作業後の万古ブナと巨木杉



万古ブナ前で

平成28年9月10日

黒森古道、岩碓沢山道、千古杉をめぐる記念登山



金沢諏訪堂の会事務局前：登山参加者



黒森古道登山口：金沢糸畑台



黒森古道大持沢周辺



黒森古道ホトトギス橋



岩碓沢山道岩碓沢峻道



岩碓沢山道岩碓沢峻道



岩碓沢山道のマンモス杉



岩碓沢山道の峰の老松



黒森古道の万古ブナ



黒森古道の万千古杉と簡易祭壇



広場で千古杉への神事執行



千古杉前広場で憩う



再開拓で憩えるようになった広場



広場で昼食



千古杉で記念写真



下山し事務局前で

3. まとめ

昨年度に発見した巨木千古杉の周辺を整備し山歩きの人々や小中学生を肇とした多くの人々が憩える場所を開拓することを今年度の目標とした。先ず、本格的な活動の前に現地踏査し、今年度の活動計画を策定した。そして、計画に

基づいて千古杉周辺の古道再開拓、藪払い、下刈り、集積処理を実施した。実施に当たっては、「農事組合法人十二牲担い手生産組合」にキャタピラ運転、チェーンソー作業、刈払い機による下刈りを委託した。都合五回の山入りで、今回の目的を達成することができた。この作業の途中で、新たな巨木、万古ブナを見付けることができた。樹齢500年前後と思われる巨木であるが、巨木杉や灌木や繁みに覆われていて、他所からはその存在が分からなかったのである。千古杉の正面にあることから、万古ブナと名付け、千古杉と万古ブナの組合せとして黒森山地の名所にしてゆきたい。

9月10日に、黒森古道開通と千古杉、万古ブナの発見を記念して会員以外の方々にも参加して貰い、黒森古道を通り黒森山に至る記念登山を挙行了。生憎、その日は雨となったが20余名が参加してくれた。遠路はるばる、千葉県「我孫子山の会」からも7名の参加をみた。黒森古道、マンモス杉、峰の老松、岩碓沢峻道、千古杉、万古ブナを十分に楽しんで貰った。別紙に我孫子山の会の会報に記載された山行報告書を示す。

また、千古杉周辺の公園化を目指して、秋田営林署、秋田県森づくり課、美郷町役場と相談してみた。千古杉周辺は、国有林なので林野庁の管轄なので秋田営林署を訪ねた。廃道になっている古道の開拓のために入山許可を快く許諾して貰ったが、公園化する課題は難しいことだと判った。国からその地域を借り受けて、公園として開発し、事故発生などの管理を執り行う自治体が必要である、という。早速、秋田県と美郷町に、千古杉周辺の公園化の計画を打診したが、いずれも即答ではNGであった。秋田営林署との最終的な話し合いでは、平成29年度以降の事業申請で適切なものを見付け、申請することが第一歩だろうということに落ち着いた。今回は、林野庁、秋田県、美郷町の三者に公園化の課題を相談し、その対策を考えたことに意味があったと考えている。秋田営林署の方々も機会を作り、現地を踏査してみたいと意欲を見せてくれた。次年度以降の活動の主なテーマとしたいと考えている。

来年度以降も「秋田県水と緑の森づくり税事業」に参加し、今年度立てた所期の目的を達成し、素晴らしい巨木杉と巨木ブナ、そして、美しい黒森山地の山林を多くの人々が愛し、慈しむような社会になるように努力したい。そして、地球温暖化をストップさせることに繋げてゆきたい。このような事業を考え実施するきっかけを与えてくれた秋田県の事業計画に感謝したい。

以上